

AO/TORI BUNKO

講談社 青い鳥文庫

ゴースト

亡霊は夜歩く

—— 名探偵夢水清志郎事件ノート ——

はやみね かおる 作 村田四郎 / 絵





講談社 青い鳥文庫

174-2

ゴースト よるある
亡霊は夜歩く

——名探偵夢水清志郎事件ノート——

はやみね かおる

1994年12月15日 第1刷発行

2000年1月21日 第18刷発行

(定価はカバーに表示してあります。)

発行者 野間佐和子

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽2-12-21 郵便番号112-8001

電話 出版部 (03) 5395-3536

販売部 (03) 5395-3625

製作部 (03) 5395-3615

N. D. C. 913 294p 18cm

装 丁 久住和代

印 刷 図書印刷株式会社

製 本 図書印刷株式会社

© KAORU HAYAMINE 1994

Printed in Japan

本書の無断複写(コピー)は著作権法上
での例外を除き、禁じられています。

ISBN4-06-148405-2 (児二)

(落丁本・乱丁本は、講談社書籍製作部あてにお送
りください。送料小社負担にておとりかえします。)

■この本についてのお問い合わせは、講談社児童局
「青い鳥文庫」係にご連絡ください。



ゴースト

亡霊は夜歩く

——名探偵夢水清志郎事件ノート——



はやみね かおる／作 村田四郎／絵



講談社 青い鳥文庫

もくじ

メニュー 料理長のごあいさつ 5

……そのほかの、おもな登場人物 10 ……

前菜 アペタイザー ふりむけばミステリーサークル 11

主菜 メインディッシュ 亡霊は夜歩く 30

オープニング おひまですか? 30

その一 まどろみの数学の授業と、鐘の伝説 35

その二 亡霊からのメッセージと、紫水晶の予言 53

その三 校庭にあらわれた魔法円と、どたばたの学園祭準備 90

その四 ようやくの名探偵登場と、ナスの酢じょうゆあえ 116

その五 せまる嵐と、消える亡霊 164

その六

長距離電話と、ちょっとした青春

194

その七

熱狂の学園祭と、クライマックス

214

その八

十五年間の呪縛と、不確定な未来

235

エンディング

祭りのあとかたづけ

262

デザート 晩餐会にご招待

269

あとがき

292



はやみねかおるの本を「おもしろい」っていつてくれた
すべての読者のみなさまに――。

さあこれから、ぼくといっしょに、まっ赤な夢をみましよう。

メニュー

料理長のごあいさつ

えっ……と。

どうも、岩崎亜衣です。

まえの事件、『そして五人がいなくなる』で、わたしたちのことをよく知っている人には、「おひさしぶり。またお目にかかれて、わたしはとってもうれしいわ。」

そして、今回はじめてお目にかかる人には、

「はじめまして。これから、どうぞよろしくね。」

……ふー、こんなもんでいいのかな？

でも、いったいなにか書きはじめたらいんだろ……。やっぱり、自己紹介や登場人物紹介かな。

では、あらためまして、わたし岩崎亜衣です。この春から虹北学園に通う中学一年生。身長

は百五十センチちよつと。体重とスリーサイズは秘密。数学と美術と推理小説とタコ焼きが好きで、ゴキブリが苦手な、どこにでもいるふつうの中学生。

で、ここからは、ふつうではないこと――。

まず、わたしには真衣と美衣という姉妹がいる。（姉妹がいることが、なんでふつうじゃないことかは、もうすこし読めばわかるからね。）

わたしがいちばんお姉さんで、真衣が次女、美衣が末っ子。

真衣は、運動神経が三人のなかではいちばんいい。とにかく活動的で、考えるよりさきに動きだしてるの。口が悪く、ガサツなように思われるかもしれないけど、ほんとうは、とても心やさしい。

美衣はあまえんぼう。本を読むのはきらいなのに、新聞狂で、毎日たくさんの新聞を読んでる。だから、みょうなことをよく知っている。

長女のわたしは、三人のなかでは、いちばんまともだと思う。本が好きで、学校では文芸部にはいって、自分でも物語を書いたりしている。

それから、お待たせしました、これがふつうじゃないことなんだけど、わたしたちは、ちよつとめずらしい三つ子なの。おなじ顔、おなじ身長だから、おなじ服を着て、髪形もいっしょにし

てだまってすわってたら、まず、だれにも見分けることができないくらい。

でも、わたしたち三人をやすやすと見分けてしまふ人が、家族以外で、たつたひとりいる。

今年の四月に、おとなりの洋館に越してきた名探偵、夢水清志郎だ。この名探偵が、いちばんふつうじゃない。

夢水清志郎は、M大学の、もと論理学教授。どうして教授をやめたのか（やめさせられたのか？）は教えてくれないけど、どうせ、学長かだれかとケンカをしたせいにきまつてる。で、わたしたちは夢水さんのことを「教授」とよんでいる。（本人は「名探偵さん」と、よんでほしいみたいだけど。）

教授は背が高い。百八十センチをかくこえる長身を、いつも黒の背広でつつんでいる。そして、目には黒のサングラス。

年齢は不明。わすれっぽい教授は、自分の生年月日をわすれてしまったの。

好きなものは本とソファ。教授の住む洋館のホールには、二つのソファが置いてあって、それぞれに『美湖』、『美由』という名前がついている。そのソファに寝ころんで本を読んでいる教授の姿は、まるで、なまけ者の大きな黒ねこみたいだ。

ごはんを食べるのをわすれて、何時間でも本を読んでいられる。表札に「名探偵」という肩書

きを書く。本屋とコンビニ以外に商店を必要としない。自分の誕生日まで、わすれてしまう。

——つまり、教授に『常識』の二文字はない。

でも、教授は名探偵だ。それはまちがいない。

教授が引越してきたときに、わたしたちは三人でひとりのようなふりをして、教授をだまそうとした。だけど、教授はあっさり、わたしたちが三つ子であることを見やぶった。また、夏休みには、遊園地でおきた五人の連続消失事件をみごとに解決した。（前作『そして五人がいなくなる』を見てね。）

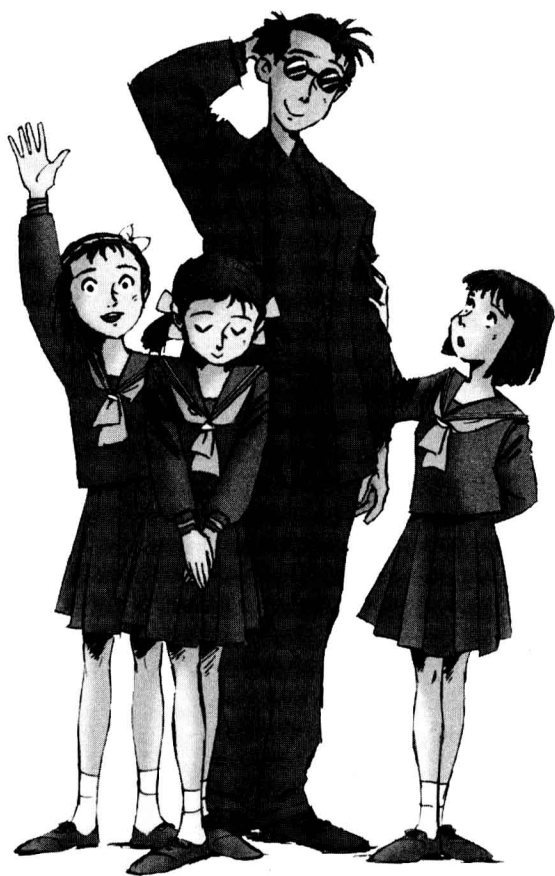
神社の御神木が歩いた事件でも、まるで答えを知ってるみたいに「かんたんな推理ですよ。」といつて、あっさり解決してしまった。（この事件については、また紹介するからね。）

それに、教授自身わすれてるみたいだけど、ほかにもたくさん事件を解決しているらしい。（警視総監とも知りあいだ。）

外見はとても名探偵に見えないけど、わたしたち三姉妹は、教授が世界一の名探偵であることをみとめている。

さて、わたしたち三姉妹や教授のことはこれくらいにして、いよいよ物語をはじめることにし

ましよう。では、どうぞごゆっくりお楽しみください。



料理長
.. 岩崎亜衣

■そのほかの、おもな登場人物■

岩崎羽衣

三つ子のお母さん。おおらかでやさしくて世話好きな、いまではめずらしい日本の母。

岩崎一太郎

三つ子のお父さん。エリート商社マンで、出張が多く、物語にはほとんどでてこない。

中井麗一

通称レーチ。亜衣のクラスでいちばんの問題児で、クラブも亜衣とおなじ。

渡辺部長

文芸部部长。もの静かな文学少女だが、原稿の締め切りのときは鬼になる。

間直玲子

星占い同好会会長 兼生徒会長。虹北学園におこる事件をつぎつぎに予言する。

真木先生

教師になつて七年めとは思えないフレッシュな数学教師。校則違反にはきびしい。

前川先生

今年で停年になる亜衣のクラスの担任教師。昔は生徒指導に熱心だった。

亡霊

虹北学園にふしぎなメッセージを送る謎の人物。

上越警部

連続誘拐事件の捜査で教授や三つ子と知りあった、顔はこわいが人情味のある警部。

前菜^{アペタイザー}

ふりむけばミステリーサークル

「教授^{きょうじゆ} 宇宙人^{うちゆうじん} って、いると思う^{おも}う？」

わたしがきくと、ソファアーに寝ころんでフレドリック・ブラウンの『火星^{かせいじん}人^{じん}ゴーホーム』を^よ読んでいた教授^{きょうじゆ}は、本^{ほん}から顔^{かお}をあげずに答^{こた}える。

「いいや。」

「UFO^{ユーエフオー}は？ 信^{しん}じる？」

真衣^{まゐ}が、『火星^{かせいじん}人^{じん}ゴーホーム』と教授^{きょうじゆ}のあいだに顔^{かお}をだしてきく。

「未^み確^{かく}認^{にん}飛^ひ行^{こう}物^{ぶつ}体^{たい}は信^{しん}じてる——っていうより、いるよ。要^{よう}は、未^み確^{かく}認^{にん}の飛^ひ行^{こう}物^{ぶつ}体^{たい}のことなんだから。でも、それが宇宙人^{うちゆうじん}の乗^のりものだってのは、信^{しん}じない。」

「どうしてよー。」

美衣^{みゐ}が文句^{もんく}をいうけど、教授^{きょうじゆ}は聞^きかない。

「きまつてるだろ。このせまい宇宙に、地球人以外に宇宙人までゴチャゴチャいたら、暑苦しくてかなわないじゃないか。」

このせまい宇宙？ また教授が、わけのわかんないことをいいだした。

「教授、宇宙って、せまいの？」

むじやきな声で美衣がきく。

「まあ、広くはないね。いま、宇宙ぜんぶの絵をかいてあげよう。」

教授が、広告の裏にクレヨンで絵をかく。

「いいかい。ぼくたちの乗っている地面は、大きな三匹のゾウさんの背中に乗っている。そして、そのゾウさんは、もっと巨大なカメさんの背中に乗っている。そうして、太陽のまわりをグルグル、あきもせずまわってるんだよ。」

教授のかいた絵は、よく本に『大昔の人が想像した宇宙の姿』ってタイトルでのってる絵とそっくりだ。

美衣は「ふーん。」と感心してるけど、信じないようにね。

でも、有名な名探偵シャーロック・ホームズは、地球が太陽のまわりをまわっていることを知らなかった。それにくらべたら、教授は地球が太陽のまわりをまわっているのを知ってるだけ、

ホームズよりましかな。

わたしは、教授の天文学に関する知識をテストしてみることにした。

「ねえ、教授、太陽系の惑星を、ぜんぶいえる？」

「あまりかんたんな質問をしないように。これでもぼくは、大学の教授だったんだから。」

そう前置きしてスラスラといった答えは、

「まず太陽に近いほうから、月、火星、水星、木星、金星、土星だね。」

「……………」

ことがない……。教授のいったのは、月曜から土曜までの一週間の順番じゃないの。それに、月は太陽系の惑星じゃなくて、地球の衛星でしょ。（正解は、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星。ただし、一九九九年までは、海王星のほうが、冥王星より遠くにあるんだって。）

「教授……。教授の答えには、地球がはいってないよ……。」

あきれた声で真衣がいう。

「あれ、どうしたんだろう？ いわれてみたら、不思議だねえ。」

気楽に笑う教授。

「ということは、地球は太陽系の惑星じゃないってことだね。これは新しい発見だ。」

教授は、あくまでも自分の答えは正解だって思ってる。ああ、頭が痛い……。

結論として、教授の天文学に関する知識は、ゼロよりも始末が悪いってことがわかった。

「ねえ、宇宙の果てはどうなってるの？」

またまた、むじやきに美衣がきく。

「宇宙の果てはね、赤いレンガで大きなかべがつくってあるんだ。そこにペンキで、『ここから先、行き止まり』って書いてあるんだ。」

「ふーん、そうだったのか。」

美衣、信じるんじゃない！

わたしは、これ以上、美衣の頭におかしな宇宙観が侵入しないよう、話を先に進める。

「教授が、宇宙人はいないって考えてるのはよくわかったけど、ミステリーサークルは、どう？」

「なんだい、その『みそ照り焼き鮭』って？」

どう聞きまちがえたら、『ミステリーサークル』が『みそ照り焼き鮭』に聞こえるのよ？

（それに、『みそ照り焼き鮭』って、どんな料理なのよ！）

「ほら、このあいだ、テレビでいっしょに見たじゃない。イギリスの麦畑に大きな円や、いろいろな模様ができてたやつ——」

「ああ、あれのことか……」

真衣の説明に、教授はうなづく。

教授の住むこの洋館に、テレビはない。そして、しょっちゅう食事をわたしの家にあさりにくる教授は、ついでにテレビも、うちでしっかり見ていく。（テレビがなくても、日本放送協会の集金人は、こりずに教授のうちにやってくるそうだ。）

「あのミステリーサークルは、どう？ UFOの着陸したあとだと思わない？」

「でも、あれは自然現象なんだろう。大学の眼鏡かけた先生が、『まちがいに、これはプラズマとよばれる、電気を帯びた微粒子の活動による現象ですね。』っていつてたじゃないか」

つまり教授は、ミステリーサークルも信じてないってわけだ。でもね、教授——。

「じつはこの近所にも、ミステリーサークルがあらわれたのよ。」

わたしは、トランプゲームのポーカードで、おなじマークのA・K・Q・J・10の五枚がそろったロイヤルストレートフラッシュのカードをだすときのように、得意げにいった。